

木村達美先生をお招きして 講演会「みやこ町出身の漱石門下生・小宮豊隆について」を 開催しました

2023年11月28日(火)、本学弘明館50周年記念ホールにおいて、みやこ町歴史民俗博物館学芸員 木村 達美先生を講師にお招きし、「みやこ町出身の漱石門下生・小宮豊隆について」と題する講演会を本学総合共通科目「ことばと日本文化」の授業の一環として開催しました。

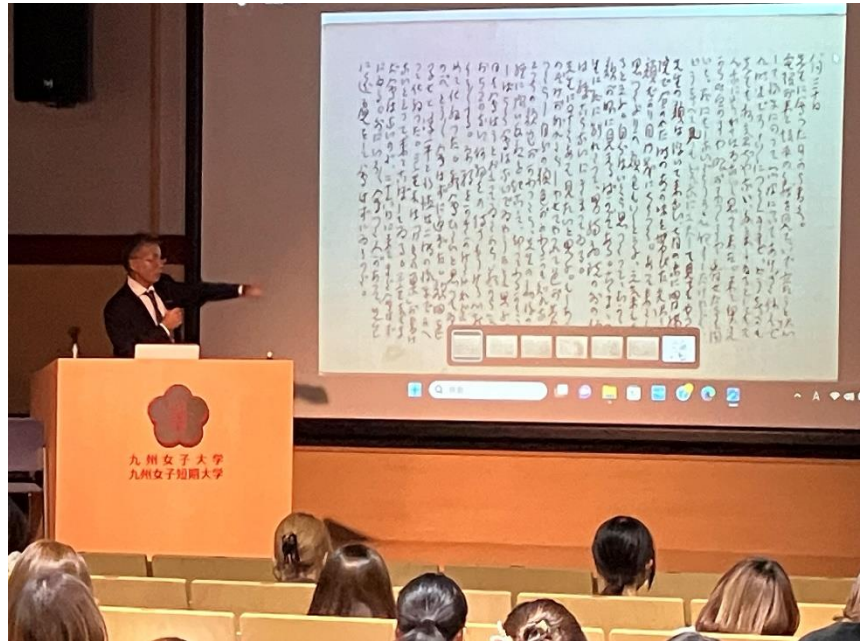
現在のみやこ町出身の小宮豊隆は、夏目漱石の門下生で、ドイツ文学者、文芸評論家。漱石門下生の中でも自他ともに認める漱石最愛の弟子といわれ、漱石作品『三四郎』の主人公「小川三四郎」のモデルともいわれ、のみならず、文豪夏目漱石の誕生から終



焉までを見届けた存在でした。漱石没後は、「近代文学全集の最高峰」とされる漱石全集の編集、漱石の遺した蔵書の管理、また漱石研究にあたりました。その小宮の姿勢は、「ミスター漱石全集」「漱石神社の神主」などと称されるほど、徹底したものと伝えられているということです。そんな小宮豊隆にまつわる貴重な資料、例えば夏目漱石や、やはり漱石門下の寺田寅彦らが小宮に宛てた手紙をはじめ、小宮自身の貴重な蔵書など、およそ1,000点にのぼる資料が、小宮家からみやこ町に寄贈され、現在みやこ町歴史民俗博物館に「小宮豊隆記念展示室」として保存、展示されています。

この講演会では、それらの貴重な資料の中から、漱石から小宮に宛てた貴重な手紙をご紹介いただきながら、手紙から垣間見ることのできる漱石の素顔・心情や漱石による達意の「文章日本語」の成立にまで言及していただきました。

講師の木村先生お勤めのみやこ町歴史民俗博物館には先にも紹介いたしました「小宮豊隆記念展示室」として小宮豊隆と夏目漱石との親密な関わりを知ることのできる貴重な漱石からの手紙が展示、公開されているとのことです。「デジタルミュージアム」として公開



されてもおりますが、ぜひ現地に足を運んで夏目漱石の手紙に触れ、その息吹きを体験したいものです。漱石ファンにとっては小宮豊隆とは夙に著名な存在であったかもしれませんが、このたびの木村先生のご講演から私たちは大学からこんなに身近な場所に日本の近代文学の中枢に関わる人物が存在していたり、文学史的にたいへん貴重な資料を所蔵・展示してくださっている博物館があることを教えていただきました。これからの私たちの学びの可能性の広さをお教えいただいた、興味深く貴重な講演会でありました。

(「ことばと日本文化」講演会開催チーム)